

内 容

- 1 滋賀県におけるデータ利活用の動き
- 2 「EBPM推進事業」について
- 3 (1) 「EBPMモデル研究事業」について
(2) 令和2年度「EBPMモデル研究事業」について
- 4 令和3年度事業について
- 5 振り返り（成果）
- 6 今後の課題（目標）

1 滋賀県におけるデータ利活用の動き

H26年度 (2014年度)	27年度 (2015年度)	28年度 (2016年度)	29年度 (2017年度)	30年度 (2018年度)	R元年度 (2019年度)	2年度 (2020年度)	3年度 (2021年度)
		滋賀大データ サイエンス教育 研究センター開 設	滋賀大データ サイエンス(DS) 学部開設		EBPM研究 チームの設置		データサイエンス職採用

職員のための統計講座

- 対象：県・市町職員
- 講師：統計課員
- 内容：
 - ・データ収集
 - ・グラフ作成
 - ・経済波及効果分析
 - ・GIS(地理情報システム)
 - ・RESAS(地域経済分析システム) 等

STAT(しが統計ア クション事業)

- 統計講演会
 - ・講師：西内 啓、竹村 彰通、河本 薫
渡辺 美智子、青山 和裕(順不同・敬称略)
- 統計相談窓口(アドバイザー：滋賀大DS学部教員)
 - ・企業・県民・行政機関からの相談約60件に対応

EBPM推進事業 (次スライド以降で説明)

2 「EBPM推進事業」について

- 目的：庁内におけるEBPMの推進
- 内容：滋賀大DS学部と連携した**EBPMの実践**および**人材の育成**

■平成30年度(2018年度)～令和2年度(2020年度)

1 EBPMモデル研究事業

EBPMを知る

目的 庁内における課題をモデルケースとして、EBPMの進め方やデータ分析の手法等を学ぶ

研究会による共同研究方式

内容 統計課、滋賀大DS学部および課題を提出した所属とで、研究会・ワーキンググループを設置し、データ分析による課題解決を目指す

2 専門統計研修

目的 データ分析に係る人材育成

内容 職員を対象に、DS学部教員が標本調査および回帰分析について、講義・実習を行う[1日(6時間)×2回(同内容)]

3 (1) 「EBPMモデル研究事業」について

■モデル研究事業の概要

年 度	テーマ	EBPMの 進め方	データ分析の 手法等	結果の活用
平成30年度 (2018年度)	滋賀県における女性の年代別労働力率（M字カーブ）の落ち込みの要因分析等（女性活躍推進課）	PPDACサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相関分析 ・ 主成分分析 ・ 重回帰分析 	要因解消に向け新たな啓発活動やセミナーの開催
令和元年度 (2019年度)	滋賀県内水道事業者の事業広域化検討について（市町振興課・生活衛生課）	QCストーリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相関分析（重回帰分析） ・ シミュレーション 	「水道広域化推進プラン」策定での活用
2 年度 (2020年度)	滋賀県における観光客の周遊分析等について（観光振興局）	ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク分析 ・ GIS(MANDARA)（順位相関） ・ データ研磨 	新たな周遊ルートの構築

(研究会)



(ワーキンググループ)



(報告会)



3(2) 令和2年度「EBPMモデル研究事業」について

■モデル研究事業の概要

●テーマ

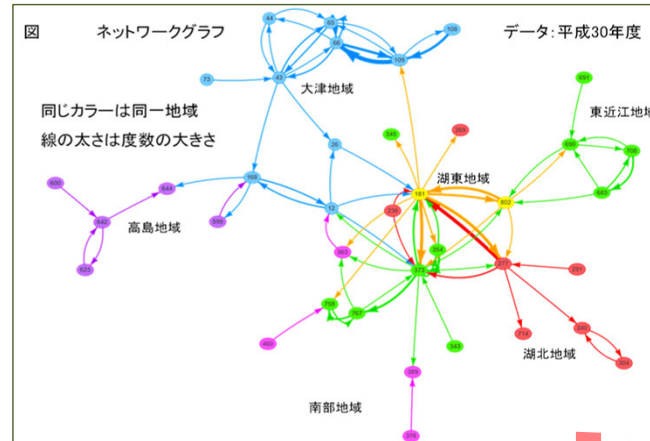
滋賀県における観光客の周遊分析等について

●背景・目的

新型コロナの影響で、観光を取り巻く状況が大きく変化する中、観光消費を促すには、観光地点間の周遊が有効であると考えられることから、観光客の動態を分析し、施策構築へつなげる

●分析

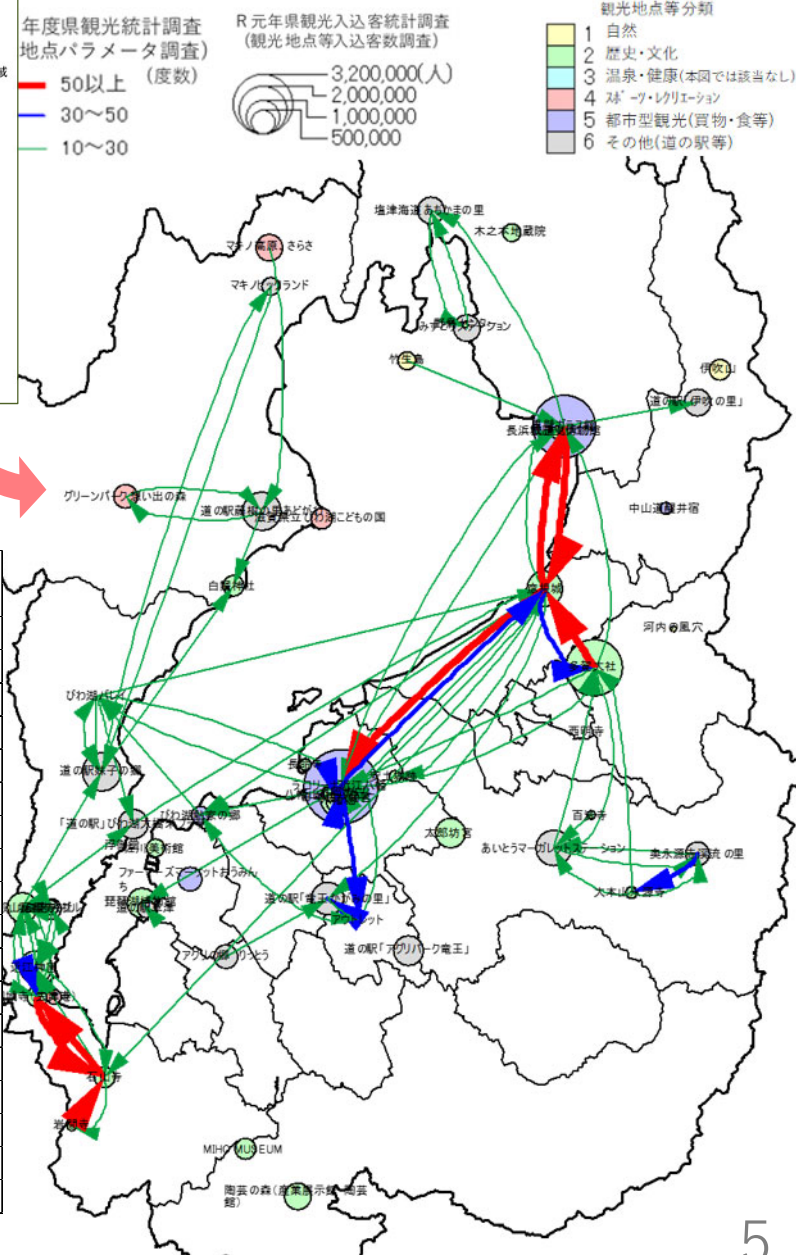
- ・観光地点を点(ノード)、地点間を結ぶ経路を辺(エッジ)とし、地点同士のつながりの向きや強さ等を分析する「ネットワーク分析」を行った
- ・ある観光地点から出発する数と、そこに到着する数(次数中心性)や、多くの観光地を結びつける中継地点としての影響力の強さ(媒介中心性)等を指標化した
- ・このうち、次数中心性の結果(ネットワークグラフ)をさらに見やすいように、GIS(地理情報システム)によって滋賀県地図に落とし込み、観光地点の特徴や周遊傾向等を把握し、新たな施策の構築について検討した



ネットワークグラフをGISで見える化

ネットワーク分析の結果

地点名称	in	out	in+out	媒介 中心性
	次数中心性			
彦根城	42	44	86	3023.3
黒壁ガラス館	39	35	74	2830.5
道の駅藤樹の里あどがわ	29	31	60	2702.3
「道の駅」びわ湖大橋米プラザ	40	29	69	2568.1
道の駅「竜王かがみの里」	38	27	65	2297.6
ラコリーナ近江八幡	44	36	80	2158.1
道の駅妹子の郷	23	27	50	2058.8
びわ湖パレイ	27	34	61	1784.5
多賀大社	31	34	65	1708.8
石山寺	29	26	55	1496.2
八幡堀	28	25	53	1380.3
園城寺(三井寺)	27	24	51	1343.5
塩津海道あぢかまの里	25	17	42	1203.8
びわ湖船家の郷	24	25	49	1163.4
アウトレット	26	22	48	1062.5
近江神宮	25	17	42	1011.4
道の駅「伊吹の里」	15	14	29	1010.8
あいとうマーガレットステーション	25	23	48	977.8



4 令和3年度事業について

■ 令和3年度(2021年度)～

1 EBPMに係るデータ分析・研究 支援検討会

目的 **EBPMを支える**
各課がEBPMを進める上で、最も高いハードルはデータ分析であることから、助言・支援等を行うことでEBPMの推進をサポートする

内容 **支援検討会による助言・支援**
統計課および滋賀大DS学部による支援検討会が、各課からのデータ収集・整備、分析手法、分析結果の評価、データ分析に係る相談等に助言等を行う

2 データ分析実践セミナー

目的 データ分析に係る人材育成の推進

内容 職員を対象に、DS学部教員が「EBPMモデル研究事業」での分析事例等をもとに、より身近で実践的な内容の講義・実習を行う[1日(3時間)×3回(相関分析、重回帰分析、主成分分析、Rの基本操作等)]

(別添4)


令和3年度 EBPM (証拠に基づく政策立案)に係る
データ分析・研究 支援検討会

データアナライズサポート

～データ分析に関する専門家が、
助言や支援を行います～

こんなお悩みはありませんか？

- ・アンケート調査を計画しているが、サンプルサイズや結果の評価について教えてほしい。
- ・県民の理解が深まるようにデータの見せ方(見える化)を工夫したい。
- ・大量のデータをどのように分析したら良いか具体的な方法を知りたい。



データアナライズサポートって？

- ・県庁内会議室において毎月1回開催(令和3年6月以降を予定)
- ・メンバーは、滋賀大学データサイエンス学部教員および統計課。
- その他、相談案件に応じた有識者を招へい。
- ・相談は申込書提出による事前予約制
- ・同一案件を継続して複数回の相談も可能

総合企画部統計課分析係
☎077-528-3397 ✉cv0002@pref.shiga.lg.jp

5 振り返り（成果）

- EBPMの事例収集およびノウハウ等の習得
- 統計課自らの分析スキル等の向上
- 庁内におけるEBPM推進の機運の醸成

6 今後の課題（目標）

■EBPMに係るコンセンサスの形成

- ・進め方
- ・利用方法
- ・対象事業
- ・エビデンスレベル 等

■政策形成のプロセスへの組み込み

■内製化の推進

■さらなる分析スキルの向上および底上げ

■継続的な取組